

人生には波がある。そう思う。短期的な波、中期的な波、そして長期的な波がある。学生時代の話だが、ある友人から占いのような占星術のようなものを教えてもらった。私は、もともと占いか運勢とかバイオリズムなどの類は、それほど気にしないタイプである。だが、これは違った。当たっているとしか認めようがなかった。おかげで、その一時期は勉強した。何だか、自分の本当のタイプのようなものを知った気がした。

しかし、就職して教員になると、自然と忘れてしまっていた。毎年、書店やコンビニには、これに関する書籍が並ぶ。それでも、手に取ることはなかった。ところが、数年前に、ふとしたことから、その本を手にする事となった。自分の30年分の人生を振り返ってみた。ほぼこれにあてはまっていた。「やっぱり」

それからである。これに基づいて行動するようになった。12という数字がある。世の中には、この数字がよく使われている。これもそうである。12年で1周期となる。そのうちの3年間は、とてもよくない期間である。我が人生を振り返ると、よくないことが起こっている時期と、この3年間はほぼ一致していた。

12という周期は、1年、12か月にも当てはまる。私の場合は、1月、2月、3月の3か月間がよくない。これは、残念ながら、毎年、固定である。

12という周期は、日にちにも当てはまる。したがって、12日間のうち3日間は、よくない期間となる。実際、そうなのか。残念ながら、そうなのである。きっと、このようなものをバイオリズムと言っているのかもしれない。

5年ほど前から、スケジュール帳に前もって、よくない3日間を書き込んでおくことにした。すると、心がまえができる。何が起きても、「まあ仕方ない」と思える。「今回は、こうきたか」と心の準備ができる。

問題は、12年周期のうちのよくない3年間と、私が野田中学校に勤務する3年間が一致していることである。この3年間のうち、1月、2月、3月は特によくない。この3か月間の日にちがよくない3日間は、もう何が起きてもおかしくないほどよくない状況である。そのぐらいよくない。

これがよく当たるのだが、だんだんとわかってきたことがある。3日間のうち、本当によくないことが起きるのは、1日だけのことが多い。よくないことは起きているのだが、起きたことよりも、そのことによって自分の感情が動くことの方が問題だということもわかってきた。心が乱れるのである。このことがわかったので、3日間は、何が起きても平常心を保つ努力をするようになった。

おもしろいのは、学生時代に私にこれを指南してくれた友人が、現在、私と同じ職場にいるという現実である。再び師匠が私の前に現れたわけである。私のよくない3年間は、今年の12月で終わる。だが、もともと1月、2月、3月は、よくない3か月間である。したがって、今年度末の3月までがよくない期間となる。まだまだ、よくない期間は続く。大切なのは、心持ちである。心の持ちようである。何事にも何者にもぐらつかない心である。